

第8回 櫛田川自然再生推進会議 議事概要（案）

日 時：令和5年4月25日（火） 14:00～16:00

場 所：嬉野公民館

1. 開 会

2. 挨拶（三重河川国道事務所 所長）

3. 委員紹介

4. 議 題

(1) 令和4年度自然再生モニタリング結果について

○令和4年度自然再生モニタリング結果及び令和5年度のモニタリング方針について説明を行った。

○委員より以下の意見、質問を頂いた。

- ・昔に比べると、餌となる藻が減っているのではないかと。環境基準が厳しくなり、川の栄養が少なくなっているのではないかと。付着藻類の状況等も整理してもらえると良い。
- ・第二頭首工の左岸側に魚道を作ってもらったが、新屋敷取水堰のようなくぼみがなく泡が立たないため、上ったアユがサギに食べられると思われる。漁業組合の意見も聞いてもらえば、もう少し新屋敷取水堰のような魚道に近づけたと思われる。
→今後モニタリングを行い、必要があれば改良ということも検討していく。
- ・昨年は大内山川でアユが多く上流まで遡上したが、櫛田川はなぜ毎年少ないのか、詳しく調べて欲しい。

(2) 地域連携専門部会報告 外来魚対策の取り組みについて

○令和4年度に実施した外来魚対策の取り組みについて説明を行った。

○委員より以下の意見、質問を頂いた。

- ・コクチバスは1匹のアユがいると3匹も4匹も狙いを定めて集まってきて捕まえるという習性をもっている。アユの友釣りをしている際にコクチバスが来て糸を切られる方もいると聞いている。

(3) 櫛田川自然再生計画の見直しについて

○自然再生計画の見直し内容について説明を行った。

○委員より以下の意見、質問を頂いた。

- ・トンボの確認種数を増やすことを目指すとしているが、具体的にはどういう取り組みをするのか。トンボが減っているというのはヤゴも減っていると考えられ、水生昆虫の減少は全国的な現象であることから、水生昆虫の専門家の意見も聞きながら進めていくと良い（河村委員）。
- ・トンボとかホタルが減っているのは、農薬の影響も考えられるので、学者さんの方で調べて欲しい。
- ・これまで縦断的な連続性ということで魚道の改良を行ってきたが、今後は湿地再生に方向転換していくということで、植物や川に接する町、農業従事者等いろいろな地域を巻き込んだ取り組みになってくると想定される。このため、この会議に参加する皆さんが、できる範囲でもう少し積極的に、前向きに取り組んでいくことが必要と考える（田代委員）。
- ・今後は氾濫原の再生を進めるということで、例えばあさみまちづくり協議会では、トウカイコガタスジシマドジョウが堤内地で確認されており、これを櫛田川の本川の方に戻してやるというような活動になると考える。皆さんの堤内地の環境がある程度河川にも再生されて、地域の賑わいが川の中にも戻ってくるというようなことが期待され、非常に良い計画と考える。地域の皆さんと一緒に協力しながら、人と自然が調和する川づくりができればと考える（北村委員）。

(4) 今後の予定について

○令和 5 年度の推進会議やモニタリング等の予定について事務局から説明を行い、了承された。

5. 閉 会